

御嵩町水道事業経営戦略の改定(概要) 計画期間:令和8年度～令和17年度(10年間)

近年、全国各地で多発している老朽管破断を原因とする断水・道路陥没事故や大規模地震などの自然災害被害を鑑みると、老朽管更新・耐震化は安全・安心な水道水の供給に必要不可欠です。また「経営戦略」の改定推進について(令和4年1月25日)通知において、経営戦略を3年から5年内の見直しを行うことが重要とされています。そのため、事業を取り巻く環境の変化を踏まえ、投資・財政計画の見直しを行い、改定します。

- ① 人口減少等を加味した料金収入の的確な反映
- ② 施設の老朽化を踏まえた将来における所要の更新費用の的確な反映
- ③ 物価上昇等を反映した維持管理費等の上昇傾向等の的確な反映
- ④ ①②③等を反映した上での収支を維持する上で必要となる**経営改革**(料金改定、広域化、民間活用・効率化、事業廃止等)の検討
(令和4年1月25日付け総務省公営企業三課室長通知「経営戦略」の改定推進について)抜粋)

投資目標
①施設・設備の更新、耐震化事業の推進
②管路更新事業の推進

▶施設や設備の更新や耐震化を優先的にを行い、加えて管路更新も実施する試算。
▶優先的に行う事業を終えた後、管路更新を60年周期で実施する試算。(管路更新総額:340億円)

財源目標
①純利益の計上
②資金残高4億円の維持

▶物価上昇、人件費の上昇を反映した費用で試算。
▶人口減少を加味した給水収益で試算。

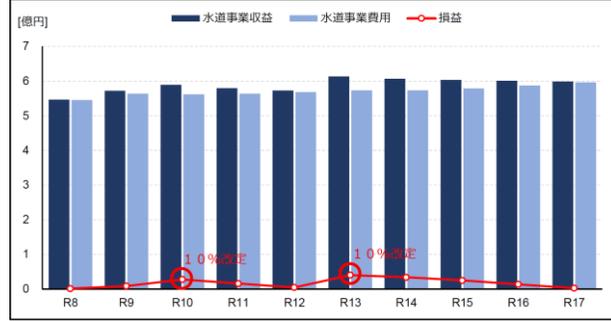
令和10年度から**赤字**が継続する見込み
令和12年度から**資金残高が0円**

収支ギャップが発生

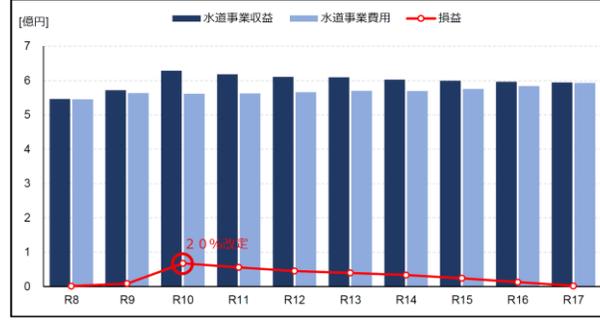
経営シミュレーション

※料金改定については、具体的な時期や改定率は、今後検証を行います。

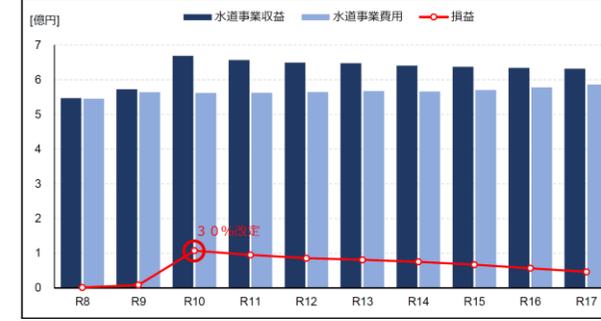
〈ケース1〉10%料金改定+企業債借入
▶計画期間に再度、改定が必要となる見込み。
▶令和17年度には、企業債残高約11億円



〈ケース2〉20%料金改定+企業債借入
▶計画期間は黒字を維持する見込み。
▶令和17年度には、企業債残高約10億円



〈ケース3〉30%料金改定+企業債借入
▶計画期間は黒字を維持する見込み。
▶令和17年度には、企業債残高約6.5億円



収支ギャップ解消案

①料金改定
料金改定については、人口減少の中、避けることはできませんが、改定の時期や率については、決算ごとに損益、資金残高、経営指標を勘案し今後検証してまいります。

②企業債
将来の負担増とならないように、企業債の借入の抑制を考慮しつつ、世代間で公平な費用負担となるよう適切な範囲内で企業債を借入いたします。

健全経営を維持します。